

(1) 特別課題研究

粘土瓦用低温焼成素地の開発(2/2)			NO. 7
粘土瓦用低温焼成素地の実用化研究 (1/1)			
研究機関／担当者		常滑窯業技術センター	山口敏弘、村瀬晴紀、松田喜樹
研究の概要	研究の内容	素地の開発については、粘土瓦用素地に適宜低温焼成用材料（粘土長石、ガラス粉等）を添加して調合する。調合物については押出成形試験により、成形性の良否を確認する。成形物については焼成試験を行い、曲げ強さ、吸水率などの物性評価を行う。最適な物性を得たものについては、粘土瓦の試作を行う。	
	研究の目標	瓦の焼成温度は現状 1130℃であるが、省エネルギーを目的として 50℃低い 1080℃の焼成温度で曲げ強さ、吸水率などの物性値が 1130℃焼成と同等となるような低温焼成素地の実用化を目指す。実サイズの瓦の試作を行う。	
	備 考	〔県〕 あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

汚泥焼却灰を活用した環境低負荷型ロングライフ建材の開発(2/2)			NO. 8
研究機関／担当者		常滑窯業技術センター 本部（共同研究支援部）	福原 徹、永縄勇人 棚橋伸仁
研究の概要	研究の内容	大量生産、大量消費に伴う環境問題の顕在化から、3R（廃棄物の発生抑制、再使用、再利用）活動に代表される循環型社会の実現を目指す取り組みが行われている。しかし汚泥焼却灰、ガラス、陶磁器くずなどはリサイクルがあまり進んでおらず、その処分方法が検討課題となっている。本研究では、これらの原料を活用した環境負荷が少なく、耐久性のある建材を開発する。	
	研究の目標	汚泥焼却灰や廃ガラス、陶磁器くず、粘土、添加剤などを原料とし、低温焼成型では1000℃以下で焼成可能な建材、不焼成型ではアルカリ活性固化技術を検討することにより、200℃以下で加温成形可能な建材を作製することを目標とする。	
	備 考	〔公財〕LIXIL 住生活財団 調査研究助成	

(2) 経常研究

伝統技法を用いた現代的な常滑焼製品のデザイン開発(2/3)			NO. 18
伝統技法「のた絵」を現代的にアレンジしたテーブルウェアのデザイン開発(1/1)			
研究機関／担当者	常滑窯業技術センター	山田 圭、長田貢一	
研究の概要	常滑焼産地には古来から伝わる伝統技法がいくつもあり、それらを利用した製品は非常に高価で製品価値が高いものの、伝統的な素地・形状・デザインから、購入する消費者は限られる。このため本研究では、伝統的な技法を用いながらも現代的な感覚にアレンジすることにより、購買層の拡大を狙う。平成 26 年度は伝統技法「のた絵」を採り上げる。		